

評価・育成システム改革ワーキンググループ（第2回）

と き 平成24年4月13日（金） 午後3時30分～

ところ 新別館南館7階 研修室3

（次第）

- 1 授業評価のあり方
- 2 意見交換
- 3 次回の開催日程等について

配布資料

【資料 1】 評価・育成システム改革ワーキンググループの設置

【資料 2】 授業評価関連資料（高等学校課）

- ・「平成 23 年度 授業公開、授業アンケートに係る実状調査」結果概要 ≪参考資料-1≫
- ・授業アンケートの実例 ≪参考資料-2≫

【資料 3】 授業評価関連資料（小中学校課）

評価・育成システム改革ワーキンググループの設置について

1. 趣旨

「教職員の評価・育成システム」の改革を行うにあたり、学校現場の長であり、また、評価（育成）者として、実際にシステム運用にあっている学校長及び市町村教育委員会の意見を聴取し、制度設計に反映させるため、「評価・育成システム改革ワーキンググループ」（以下「ワーキンググループ」という。）を設置する。

2. 意見聴取内容

ワーキンググループは、主に以下の項目の意見を聴取する。

【項目①】

- ・ 授業評価の手法の検討
- ・ 府立学校における授業評価のガイドラインの改訂 等

【項目②】

- ・ 「評価・育成システム」の評価基準の再構築 等

3. 体制

- ・ ワーキンググループは、別表第1に掲げる者で組織する。
- ・ ワーキングの主宰は、教職員企画課が担当する。
- ・ ワーキンググループの下に参事、課長補佐等による作業チームを設置する。
なお、具体案策定等の作業については、当該事務を所管する課が行う。

4. スケジュール

スケジュールは別表第2のとおりとする。

評価・育成システム改革ワーキングメンバー

	職名等	氏名	備考
府教育委員会	教育総務企画課長	見浪 陽一	
	高等学校課長	和田 良彦	
	支援教育課長	三ツ石 浩幸	
	小中学校課長	箸尾谷 知也	(~3/31)
		吉美 学	(4/1~)
	教職員企画課長	秦 光広	
教職員人事課長	中野 伸一		
府立学校長	富田林高等学校校長	易 寿也	
	久米田高等学校校長	岡村 多加志	
	千里高等学校校長	西島 多枝子	
	貝塚高等学校校長	本河 剛一	(~3/31)
			(4/1~)
	堺工科高等学校校長	大澤 宣彦	(~3/31)
			(4/1~)
淀川工科高等学校校長			
東大阪支援学校校長	家門 鉄治		
市町村教育委員会	羽曳野市教育長	藤田 博誠	
	太子町教育長	那谷 定彦	
小・中学校長	大阪市立扇町小学校校長	加藤 博之	(~3/31)
	大阪市立晴明丘南小学校校長	石丸 真平	(4/1~)
	寝屋川市立中木田中学校校長	宇治 和比古	

スケジュール

＜開催日程・各回の意見聴取内容＞

○第1回 平成24年3月27日(火) 午前9時30分～
 ＜内容＞ スケジュールの確認、協議内容の確認 等

○第2回(4月)以降

開催日程	各回の意見聴取内容
第2回 4月13日(金)	・授業評価のあり方
第3回 4月27日(金)	・高等学校における授業評価のガイドライン及び支援学校の授業評価の手法
第4回 5月11日(金)	・小中学校の現状と授業評価の手法
第5回 5月18日(金)	・「評価・育成システム」と「授業評価」とのリンク
第6回 5月25日(金)	・評価基準の再構築①
⇒ 5月29日(火)	*校長協会、市教委、小中学校長会等に中間報告
第7回 6月8日(金)	・「評価・育成システム」と「指導が不適切な教員の認定」とのリンク
⇒ 6月8日(金)	*教育委員会議に中間報告
第8回 6月15日(金)	・評価基準の再構築② 及び予備日
⇒ 見直し(案)を固める	

I 授業評価に係るこれまでの経緯

■ 「授業評価システム」推進事業の実施 (平成16, 17年度)

○府内の小学校12校、中学校10校、府立高等学校11校、計33校を研究推進校に指定
 (高校) 吹田東、三国丘、槻の木、高津、天王寺、松原、夕陽丘、今宮、泉陽、交野、成美

授業評価の取組の推進をめざし、授業評価の方法、評価結果の分析、分析結果に基づく指導方法改善の在り方や指導計画の在り方等について実践研究を行った。

事業終了後、各学校の「最終報告書」をもとに、「授業評価システム」活用の手引きとして、報告集「よりよい授業をつくるために」を作成した。



■ 「大阪の教育力」向上プランにおける今後の方針 (平成21年1月策定)

(重点項目21) 府立学校の組織的な運営と自立的取組みの支援

全府立学校で授業評価を実施することにより、府立学校の自立的取組みを進める。
 (学校として組織的に実施している授業評価の導入率: 府立高校27.7% (H19))

《スケジュール》 平成22年度から全府立学校に授業評価を導入、実施



■ 「平成22年度府立学校に対する指示事項」による指示内容 (平成22年2月配付)

○平成22年度の取組みの重点

学習指導要領の趣旨を踏まえ、教員は一層授業改善に取り組み、魅力ある授業づくりに努めること。
 その際、全府立学校で授業アンケートを用いた授業改善の校内システムを構築すること。

○本編

授業アンケートを用いた授業改善校内システムの構築にあたっては、「授業評価ガイドライン(仮称)」(平成22年3月発行予定)を活用すること。



■ 「授業評価ガイドライン」の記載内容から (平成22年3月策定・配付)

○授業評価について

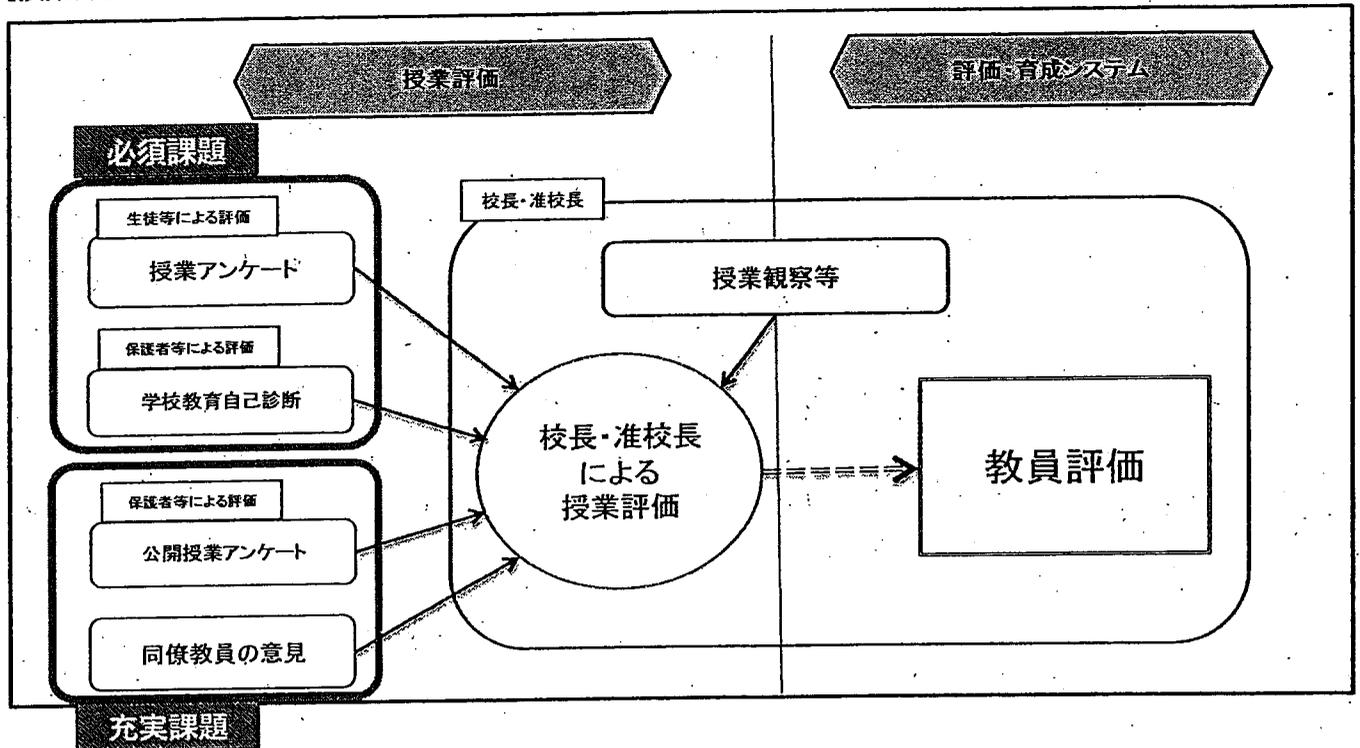
授業評価とは、授業の質の向上により、生徒にとって「魅力的な授業」「わかる授業」を実現することを目的として、多様な観点から授業を検証する取組みである。

○組織的な実施とは

授業改善と授業の質の向上には、評価結果から明らかになった課題を全教員が共有し、改善方策及び新たな目標設定について議論するなど、学校全体として組織的に授業改善に取り組むことが重要。

II 平成25年度からの教員評価とのリンクに向けた授業評価の取組

【授業評価と評価・育成システムとのリンク】



1 平成25年度からの全校共通した取組について

必須課題

- (1) 全教員について、生徒による授業アンケートを実施し、評価の結果を校長・准校長先生が把握する。
 - (2) 各校が実施する授業アンケートの一部に、全校共通したアンケート項目を入れる。
 - (3) 毎年度、保護者を対象とした学校教育自己診断を実施し、その中で授業に対する意見を聴取する。
- * (1), (3)については、平成24年度から実施する。

2 授業改善に向けた取組のさらなる充実について

充実課題

- (1) 公開授業における保護者等による授業アンケートの実施や、同僚教員による研究授業・授業見学の取組の充実を図る。
- (2) 授業アンケートの結果から授業の課題を洗い出し、発見された課題に対する改善方策を策定する。

【参考】大阪府立学校条例

(教員の勤務成績の評定)

第十九条 教員の勤務成績の評定は、校長による評価に基づき行うものとする。

2 教員のうち授業を行う者に係る前項の評価は、授業に関する評価を含めて行うものとする。

3 前項の授業に関する評価は、生徒又は保護者による評価を踏まえるものとする。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成二十四年四月一日から施行する。ただし、第十六条及び第十九条の規定は、平成二十五年四月一日から施行する。

III 具体的な取組について

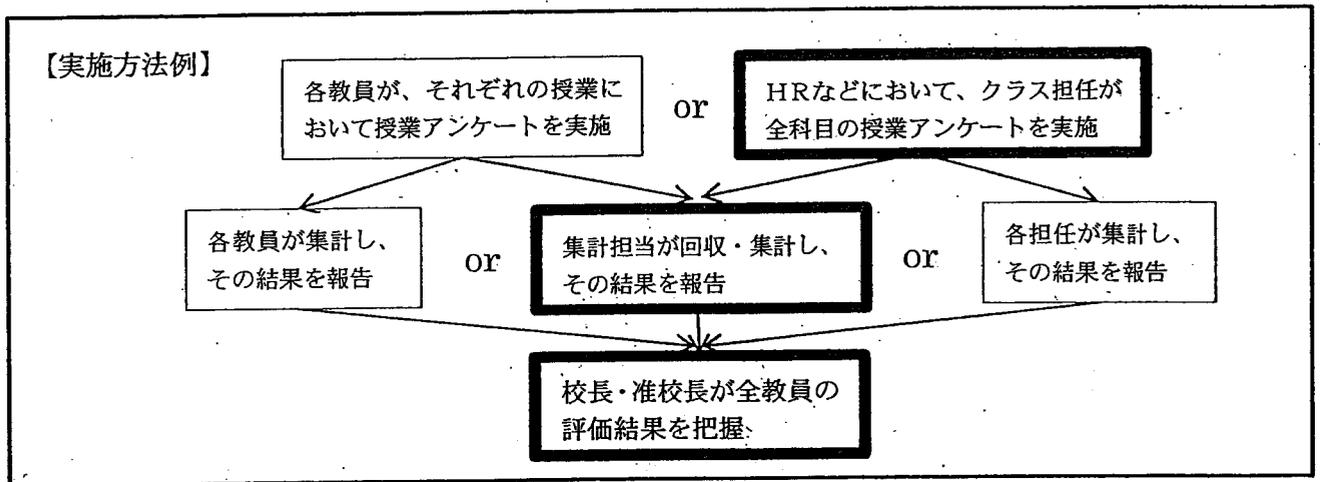
1 平成25年度からの全校共通した取組について

必須課題

(1) 全教員についての生徒による授業アンケート実施

- すべての教員について、担当する全クラスにおける授業アンケートを実施する。
- 教員一人ひとりの評価結果を校長・准校長が把握する。

校長・准校長が教員一人ひとりの評価結果を把握するためには、授業で実施する場合またはHRなどで一斉に実施する場合において、以下のような方法が考えられる。



【授業における実施とHRにおける実施のメリット・デメリット】

	メリット	デメリット
授業実施	授業に対する印象が強い中で評価できる 評価する時間に余裕をもつことができる	アンケートにかかる時間が多く、生徒の負担が大きい 授業者がいると客観的評価ができない可能性がある
HR実施	担任が実施することで、公平性・匿名性を担保できる 全教員のアンケートを一斉に実施し、集計できる 集計・集約の負担軽減につなげることができる 紙の節約になる	評価が他教員との比較になる可能性がある 評価項目数が多くなり、精度が下がる可能性がある

(2) 全校共通した授業アンケート項目の設定

- 各校が行う授業アンケート項目に、全校共通のアンケート項目を入れる。

授業評価とは、さまざまな側面から授業を浮き彫りにし、その授業の課題を洗い出す取組である。授業アンケート項目については、各校における授業の課題を明確にした上で、授業改善や教員の授業力の目標設定を踏まえ作成するべきであり、すべてを全校共通にすることは適切ではない。

⇒ 各校が作成する授業アンケートの中に、全校・全科目で共通に「生徒の授業に対する満足度」を測ることができる質問項目（総合評価）を含めることとする。

次に示す授業評価規準表は、クラス担任がHR等で実施する形態を想定し、講義形式のアンケート項目の参考例として作成したものである。なお、生徒の率直な意見を聞くために、表の中に自由記述欄を設けることも可能である。

【生徒による授業評価規準表例 (講義形式・一覧形式)】

■自己評価項目		評価項目	
番			
1		家庭でも予習や復習の時間をとっている。	生徒の行動様式への反映
2		授業中は集中して先生の話聞き、学習に取り組んでいる。	
3		クラス全体が授業に対して前向きに取り組んでいる。	
■授業評価項目		評価項目	
評価軸	番		
生徒理解	1	授業の難易度や進度は、生徒の状況に合わせたものになっている。	学校独自項目
	2	机間巡視をするなど、生徒の理解度や学習意欲を把握しようとしている。	
授業計画	3	毎回授業のはじめに、授業の目標やねらいを明確にしている。	
	4	評価方法を示すとともに、生徒の様々な面を適切に評価している。	
教材活用	5	教科書のほか理解に役立つプリントや補助教材を効果的に活用している。	
	6	使用する教材について深く理解しており、生徒の質問にも的確に答える。	
授業展開	7	大きな声で分かりやすいことばを使って、説明したり質問したりする。	
	8	板書は、字も大きくていねいで、内容も整理されており分かりやすい。	
授業分析	9	生徒に分かる授業をしようという、熱意や意欲をもっている。	共通項目
	10	生徒の意見や要望を取り入れるなど、常によりよい授業を行うことに努めている。	
総合評価	11	授業を受けて、科目に対する興味・関心が一層深まった。	
	12	授業を受けて、知識や技能の習得を実感している。	
	13	「魅力的な授業」「わかる授業」であると感じている。	
■回答様式例 (4…そう思う、3…ややそう思う、2…あまり思わない、1…思わない)		自己評価	授業評価
科目	担当 教員	1 2 3	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
国語(現文)			
国語(古典)			
現代社会			
数学I			
数学A			
...			

*「授業評価ガイドライン(改訂版)」には、評価軸ごとに、想定される評価項目を複数示す。

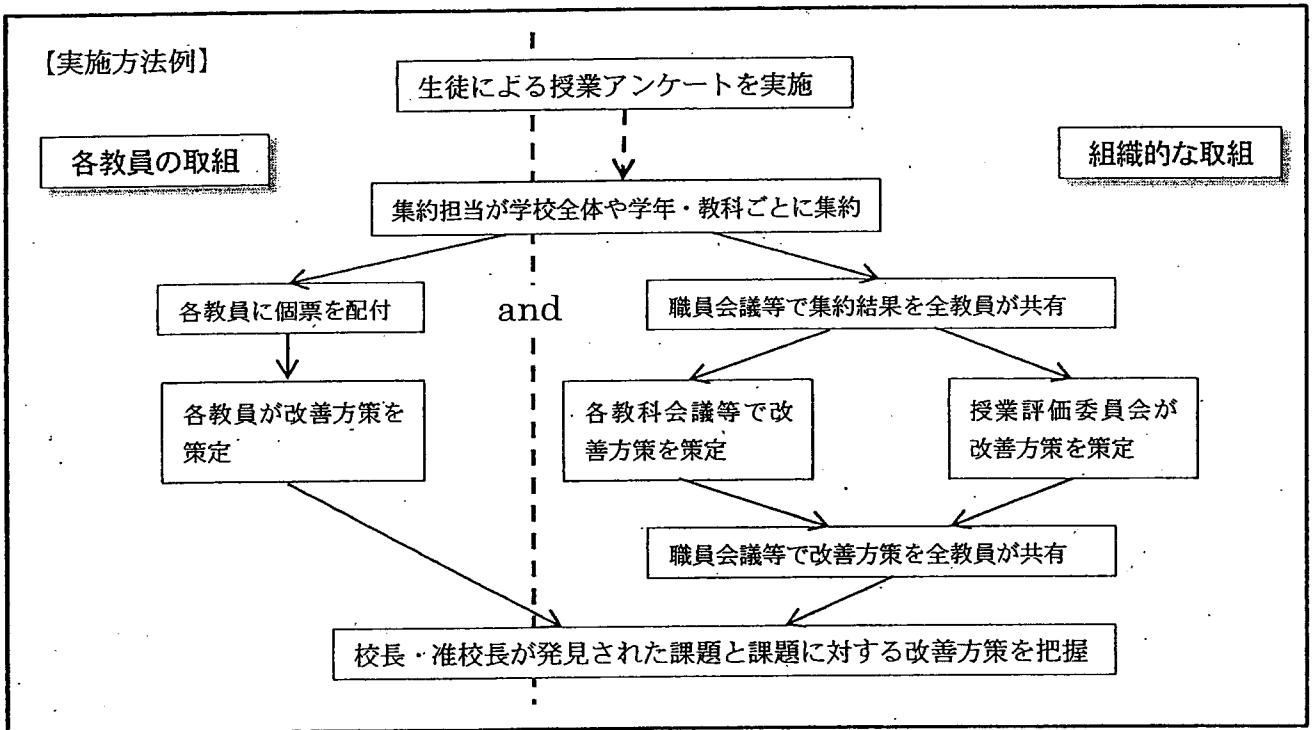
2 授業改善に向けた取組のさらなる充実について

充実課題

(1) 授業評価結果を活用した授業改善の取組

- 学校全体や学年・教科ごとに集約し、その結果を共有
- 評価結果から発見された課題に対する改善方を策定

各教員の集計結果を学校全体や学年・教科ごとに集約し、その結果を職員会議・学年会議・教科会議などで共有する。また、各教員及び各教科・授業評価委員会等が、その結果を分析、課題を洗い出し、その課題に対する改善方を検討・策定する。



校長・准校長が、各教員が策定した改善方を確認する方法として、以下のような自己評価報告書を活用することが考えられる。

【自己評価報告書例】

評価軸	評価結果 (数値)	評価結果から明らかになった課題	課題に対する改善方策
生徒理解			
授業計画			
教材活用			
授業展開			
授業分析			
【授業評価を実施しての感想】			
【授業改善に向けた課題】			

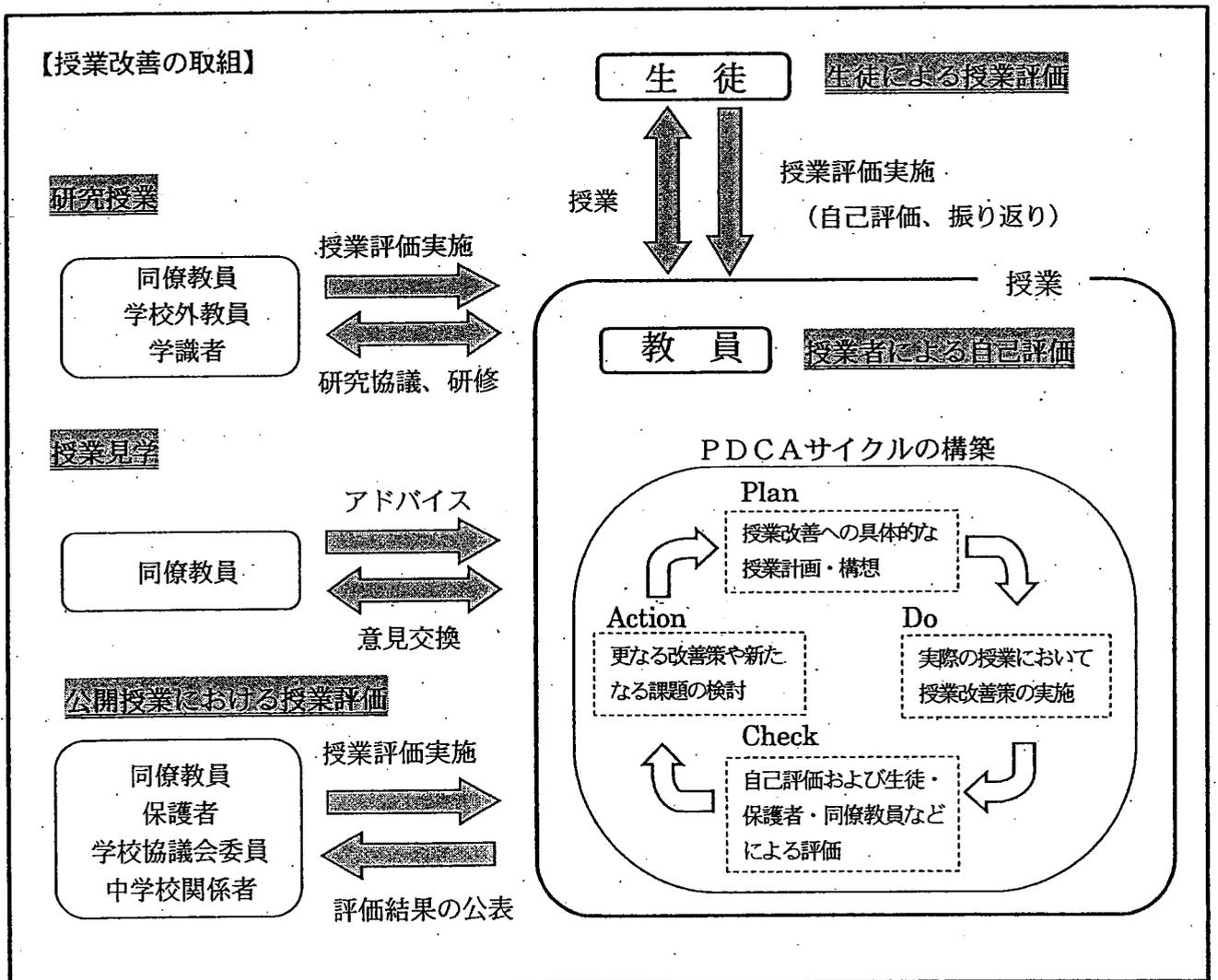
(2) 研究授業・授業見学や公開授業の取組の充実

研究授業や公開授業、授業見学週間などを行事計画に位置づけて実施するとともに、それらの実施が授業改善につながるような取組を進める。

■研究授業
 同僚教員のほか、他校の教員や学識者を含めた研究授業・研究協議を実施し、授業についての意見交換を行うことで、自らの授業を客観的に評価するとともに、授業の課題や改善方策などを共有

■授業見学
 同僚教員間で互いに授業を見せ合い、授業における課題を共有するなど、チームとしての授業改善の取組を推進

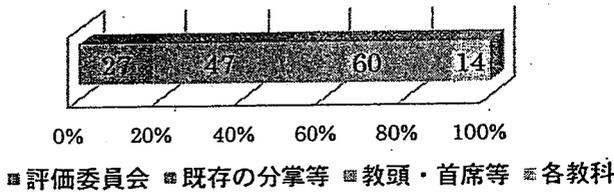
■公開授業における授業評価
 保護者・学校協議会委員などに授業を公開することで、学習集団・学習環境に対する評価などを含め、より多くの視点から授業を評価



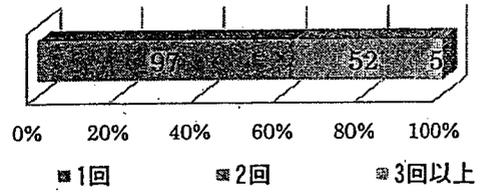
「平成23年度 授業公開、授業アンケートに係る実施状況調査」結果概要 (調査対象: 154校)

■生徒による授業アンケートの実施について (実施校数 154校/154校)

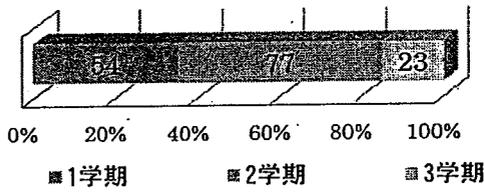
(1) 実施した主体



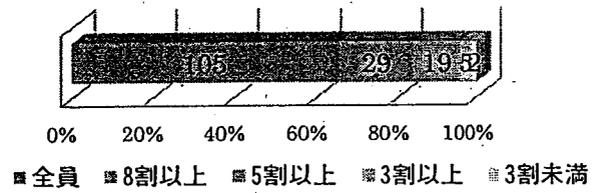
(2) 実施回数



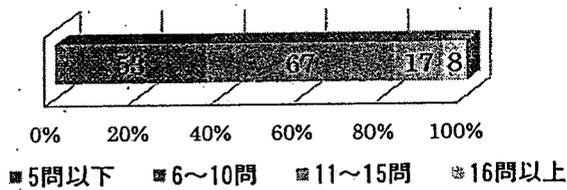
(3) 第1回の実施時期



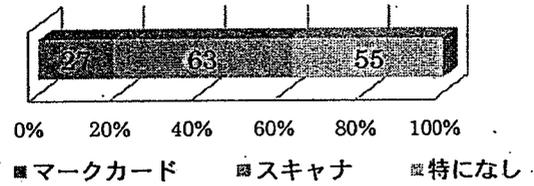
(4) 実施した教員



(5) 共通の評価項目数

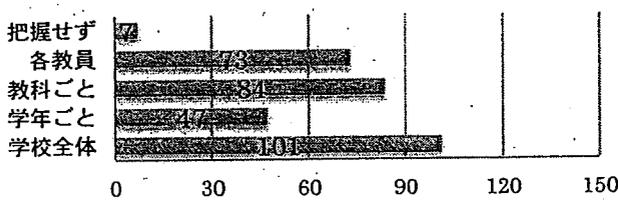


(6) 集計の負担軽減の工夫

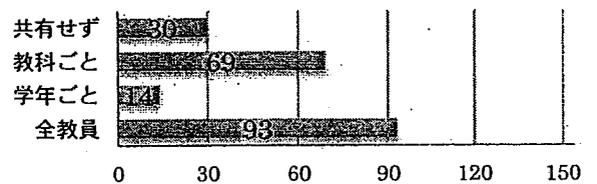


■授業アンケート集計後の取組について (複数回答可)

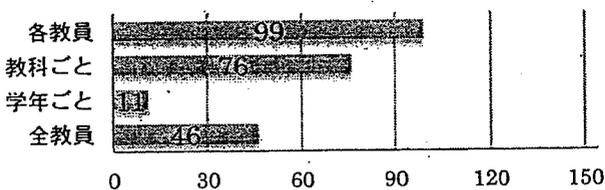
(1) 校長・准校長による結果の把握



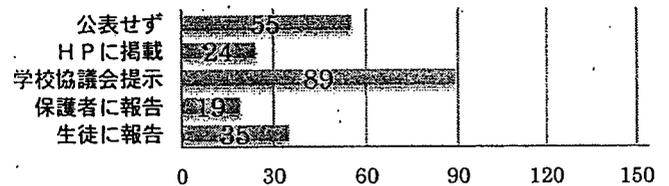
(2) 分析結果の共有



(3) 改善方策の検討



(4) 集計結果・分析結果等の公表



■授業公開の実施について

(1) 研究授業 151校/154校 (初任者等: 96校 各教科から: 20校 指導教諭等: 10校)

(2) 授業参観(保護者) 138校/154校 (参加者計 100名以上: 24校 20名以上: 55校 20名未満: 56校)

(3) 授業公開(学校協議会委員) 65校/154校

「平成23年度 授業公開、授業アンケートに係る実施状況調査」結果 (調査対象 154校)

1 生徒による授業アンケートについて

■授業アンケートの実施について

全校で実施しているが、すべての教員については68%。
半数に満たない学校も7校ある。

- (1) 実施校数 154校/154校
- (2) 実施主体 授業評価委員会：27校 既存の分掌等：47校 教頭・首席等：60校 各教科：14校
- (3) 実施時期決定 前年度中：63校 今年度4月中：23校 今年度5月以降：67校
- (4) 実施回数 1回：97校 2回：52校 3回以上：5校
- (5) 第1回実施時期 1学期：54校 2学期：77校 3学期：23校
- (6) 実施機会 HR：58校 一般授業：108校 研究授業：9校 公開授業：5校
- (7) 実施教員 全員：105校 8割以上：29校 5割以上：13校 3割以上：5校 3割未満：2校

■評価規準表(アンケート項目)について

共通のアンケート実施は91%。
そのうち86%が質問項目10問までである。

- (1) 共通のアンケートを使用した学校数 140校/154校
- (2) 評価項目数 5問以下：53校 6～10問：67校 11～15問：17校 16問以上：8校
- (3) 段階評価の段階数 4段階：124校 5段階：12校 3段階：4校 段階評価なし：2校
- (4) 生徒の記名 記名を指示：31校 生徒に任せる：23校 記名欄なし：92校
- (5) 生徒の記述欄 記述欄あり：97校 記述欄なし：48校
- (6) 生徒の自己評価項目 自己評価項目あり：129校 自己評価項目なし：14校
- (7) 生徒の自己評価項目数 3問以下：58校 4～6問：56校 7～9問：11校 10問以上：6校

■授業アンケート結果の集計について

集計者は各校さまざま。集計せずという学校が4校

- (1) 集計者 各教科：17校 教頭・首席等：45校 分掌等担当：42校 各教員：43校 集計せず：4校
- (2) 最終集約 教科ごと：75校 学年ごと：40校 各教員：79校 学校全体：85校
- (3) 負担軽減 マークカード：27校 ドキュメントスキャナ：63校 特になし：55校

■集計(集約)結果のフィードバックについて

校長・准校長が各教員の結果を把握しているのは47%のみ。
全く把握していない学校も7校ある。

- (1) 結果の共有 学校全体の結果を全教員で共有：96校 学年ごとの結果を各学年で共有：31校
教科ごとの結果を各教科で共有：71校 教員ごとの結果を個別に配付：65校
- (2) 校長・准校長による結果の把握 学校全体：101校 学年ごと：47校 教科ごと：84校
各教員：73校 把握していない：7校

■授業アンケート後に行った取組等について

集計結果の分析、分析結果の共有がなされていない学校がある。
また、36%の学校が結果等の公表ができていない。

- (1) 分析者 各学年担当：4校 各教科担当：38校 教頭・首席等：69校 分掌・委員会の担当：31校
各担任：1校 各教科(教科会議)：58校 各学年(学年会議)：8校 各教員：76校
- (2) 分析結果の共有 全教員(職員会議等)：93校 教科ごと(教科会議)：69校
学年ごと(学年会議)：14校 共有していない：30校

- (3) 改善方策の検討 全教員(職員会議等) : 46校 教科ごと(教科会議) : 76校
 学年ごと(学年会議) : 11校 各教員 : 99校
- (4) 結果等の公表 生徒に報告 : 35校 保護者に報告 : 19校 学校協議会提示 : 89校
 HPに掲載 : 24校 公表していない : 55校

■学校として策定した評価結果から発見された課題に対する改善方策の概要

- ・教員間における授業規律の意思統一
- ・各教科で次年度に向けた対応策(科目統一テストの実施、小テストの実施、進学対策の再確認、家庭学習のための課題の提示、グループ学習の工夫、情報リテラシー向上のための教材の工夫など)を策定
- ・研究授業充実など、教科を中心とした取組を進めるため、来年度から時間割内での教科会議を実施
- ・家庭学習(自学自習)の定着に向け、定期考査ごとの家庭学習の振り返り(1年)、進路実現に向けた家庭学習プリントの作成(2年各教科)を実施

■分析結果や課題に対する改善方策等を生徒または保護者に報告した場合の、その方法と内容

- ・授業担当者がアンケート結果の内容や今後の改善の方向性などを生徒に報告
- ・各教科で作成した「今後の授業の工夫・改善」についてのプリントを生徒及び保護者に配付
- ・授業の予習・復習の仕方や授業を聞くときのポイントについて説明を加え、配付
- ・アンケート結果をP T A新聞やHPに掲載

■生徒による授業アンケートを実施し、授業改善に取り組んだことによる成果

- ・評価結果をもとに生徒との意思疎通を図る機会が増えた。
- ・授業改善に取り組む気運が高まり、教員相互の授業参観が自由に行える雰囲気ができつつある。学校全体での授業改善に取り組む研修でも、各教科や学年から工夫を凝らした授業の紹介や発表などが行われた。
- ・アンケート結果を教科(科目)で分析し、課題に取り組むことで、特に経験の浅い教員の授業改善につながった。また、中堅・ベテラン教員にとっても、新たな発見・気づきを授業改善に活用できた。
- ・アンケート項目に生徒の自己評価項目を入れたことが、生徒の授業態度の改善につながった。

■組織的な授業改善のシステム構築や、授業アンケートの実施を授業改善につなげる上での課題

- ・現在は教頭・首席等が中心に実施しているが、今後、校務分掌等などにおいて組織的に実施し、教員から積極的な授業改善についての意見が出てくるシステムづくりが必要。
- ・PDCAサイクルに位置付けるには、1学期末に課題把握、3学期に改善評価の少なくとも2回の実施が必要と思われるが、集計の負担が大きく、現在は1回しか実施できていない。
- ・教科の特性の違いにより、全科目について共通のフォーマットでアンケートを実施することは困難。
- ・展開授業が多く、全ての授業についてアンケートを実施すると生徒の負担が大きい。各教員が2講座以上の基準で実施しているのが現状である。
- ・生徒による評価の正当性・妥当性を疑う教員の姿勢を払拭するのは容易ではない。
- ・教員の中には、生徒に評価されることに対する不満や、この結果が教員評価に利用されることへの不安があり、授業改善につなげることを目的とする授業評価の意義が理解されていない。

2 授業公開について

■研究授業（授業改善のための研究協議等を行うもの）について

ほぼすべての学校で実施。ただ、実施者の多くは初任者。一部の学校で教科を中心とした研究授業が行われている。

- (1) 実施校数 151校 / 154校
- (2) 実施日数（校内のみ） 1～4日：44校 5～9日：19校 10日以上：9校
- (3) 実施日数（公開） 1～4日：110校 5～9日：17校 10日以上：4校
- (4) 実施した教員の人数 1～4名：79校 5～9名：52校 10名以上：19校
- (5) 実施した教員 初任者等：96校 各教科から：20校 指導教諭・若手教員等：10校

■研究授業以外の保護者を対象とした授業公開（授業参観）について

90%の学校で実施しているが、参加者は少ない。

- (1) 実施校数 138校 / 154校
- (2) 実施日数 1～4日：90校 5～9日：29校 10日以上：16校
- (3) 参加者合計 100名以上：24校 50名以上：25校 20名以上：30校 20名未満：56校

■研究授業以外の学校協議会委員を対象とした授業公開について

実施率は42%である。

- (1) 実施校数 65校 / 154校
- (2) 実施日数 1～4日：63校

■研究授業以外の同僚教員間の授業見学について

87%の学校で実施しているが、参加者については把握できていない。

- (1) 実施校数 134校 / 154校
- (2) 実施方法 常に見学可能：54校 授業見学期間設定：68校 授業見学日設定：14校

■中学生を対象とした学校説明会・体験入学での授業公開（授業体験）について

84%の学校で実施

- (1) 実施校数 130校 / 154校
- (2) 実施日数 1～4日：119校 5～9日：6校 10日以上：3校

■研究授業やその他の授業公開の計画について

行事計画に入れて実施している 129校 / 154校

■研究授業・授業見学を授業改善につなげるために、学校で工夫していること

授業改善に向け、同僚教員間での授業見学を実施する学校が増えている。

- ・各教科での研究授業の実施と授業後の研究協議（教科会議の時間の有効活用）
- ・教科を超えたペアによる授業見学の実施
- ・指導教諭・首席及び初任者による積極的な授業公開
- ・同僚教員間で授業見学した場合の、感想や意見を伝えるためのアドバイスシートの活用
- ・全教員による授業公開の実施と見学の義務づけ
- ・大学教授、授業研究者（大学院生）、教員志望等の大学生への公開授業の実施

グループ	生徒番号	氏名	授業科目

このアンケートは、今の授業について生徒の皆さんの率直な意見や感想を聞き、今後いっそう改善していくのに役立てることが目的です。ぜひ協力してください。

それぞれの設問を読んで、よく考えて自分の思ったとおりに評価を選びマークしてください。

○正しいマーク ×悪いマークの例

(きれいに塗る) (一部をチェックしただけ、糊すぎる、薄いのを×)

番号	設問	評価			
		(それぞれ該当すると思うものをマークしてください)			
1	先生は授業のはじめに、なにをやるか伝えてくれる。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
2	先生は大きな声・わかりやすい言葉で説明・質問する。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
3	黒板の字は、大きくていいで、わかりやすい。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
4	先生はわかりやすいプリントをうまく使っている。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
5	先生は生徒の力にあわせて授業をしている。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
6	先生はわかる授業をしようという熱意をもっている。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
7	私は集中して先生の話を聞き、学習している。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
8	私は授業を受けて、科目に対する興味が深まった。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
9	私は授業を受けて、学力がついたと思う。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
10	全員が授業に対して前向きに取り組んでいる。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>

ほかに意見や感想がある人は書いてください。

グループ	生徒番号	氏名	授業科目

このアンケートは、今の授業について生徒の皆さんの率直な意見や感想を聞き、今後いっそう改善していくのに役立てることが目的です。ぜひ協力してください。
それぞれの設問を読んで、よく考えて自分の思ったとおりに評価を選びマークしてください。

○正しいマーク ×悪いマークの例

(きれいに塗る) (一部をチェックしただけ、細すぎる、薄いのは×)

番号	設問	評価			
		(それぞれ該当すると思うものをマークしてください)			
1	先生は授業のはじめに、なにをやるか伝えている。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
2	先生は大きな声・わかりやすい言葉で説明・質問する。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
3	先生の授業は、順番にすすみ、わかりやすい。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
4	先生はプリント・ビデオなどを活用している。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
5	先生は生徒の力にあわせて授業をしている。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
6	先生はわかる授業をしようという熱意をもっている。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
7	私は集中して先生の話の話を聞き、学習している。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
8	私は授業をうけて、科目に対する興味が深まった。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
9	私は授業をうけて、上手になったと思う。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>
10	全員が授業に対して前向きに取り組んでいる。	そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思う <input type="checkbox"/>	どちらかという そう思わない <input type="checkbox"/>	そう思わない <input type="checkbox"/>

ほかに意見や感想がある人は書いてください。

平成 23 年度 後期授業評価について

(1) 履修状況 (WS、native 関連科目を除く)

後期授業登録者数	6,892 件
後期履修者数	4,087 件
回答数	3,087 件

履修率 59.3%
(△4.3%)

$3,087 / 4,087 = 75.5\%$ (△4.3%) 後期の履修者に対する割合

$3,087 / 6,892 = 44.8\%$ (△5.6%) 在籍者に対する割合

(2) 実施状況

実施した講座数	286 講座
実施しなかった講座数	19 講座

(3) アンケートの質問の評価基準

授業評価項目		自己評価項目	
授業計画	質問 1	参加意欲	質問 7
授業展開	質問 2、質問 3	興味	質問 8
教材活用	質問 4 (体育は除く)	達成感	質問 9
生徒理解	質問 5	参加態度	質問 10
授業分析	質問 6		

(4) 分析

① 全体的な傾向

前期と同様に、生徒の教師に対する授業評価項目のポイントは高いが、生徒の自己評価は低い。特に、質問 8 の興味のポイントが低い。

② 前期の集計結果と比較して

評価項目のポイントの増減について変化は少なかったが、ポイントが下降した科目はほとんどなく、前期よりも後期の方が若干、ポイントは上昇していた。特に以下に示す科目でポイントは大きく上昇している。

前期に比べて評価項目のポイントが大きく上昇した科目

世界史A	1.6 Δ	体育Ⅱ	1.3 Δ
現代社会	1.4 Δ	体育Ⅲ	2.1 Δ
数学必修修以外の科目	2.3 Δ	保健Ⅰ	2.5 Δ
理科必修修以外の科目	1.4 Δ	芸術必修修以外の科目	1.6 Δ
体育Ⅰ	1.1 Δ	英語必修修以外の科目	1.0 Δ

入学年次の必修修科目については生徒の自己評価項目については以下の表のように前期に比べてポイントは上昇している。

入学年次の必修修科目の生徒の自己評価項目のポイントの増減

国語総合	0.1 ▼	保健Ⅰ	1.2 Δ
世界史A	0.9 Δ	芸術Ⅰ	0.7 Δ
現代社会	0.6 Δ	OCⅠ	0.5 Δ
数学Ⅰ	0.3 Δ	家庭基礎	0.5 ▼
理科総合B	0.2 Δ	社会と情報	0.3 Δ
体育Ⅰ	0.5 Δ	GSI	0.7 Δ

③次年度の課題

入学年次の必修修科目を中心に「わかる授業」「魅力的な授業づくり」等、一層の授業に対する工夫が必要である。教員間の授業公開を有効に活用して授業を通じて学校の活性化をすすめていきたい。

学びなおしのあり方についても、教育課程の枠組みや各教科における具体的な到達目標の設定など十分に検討する必要がある。

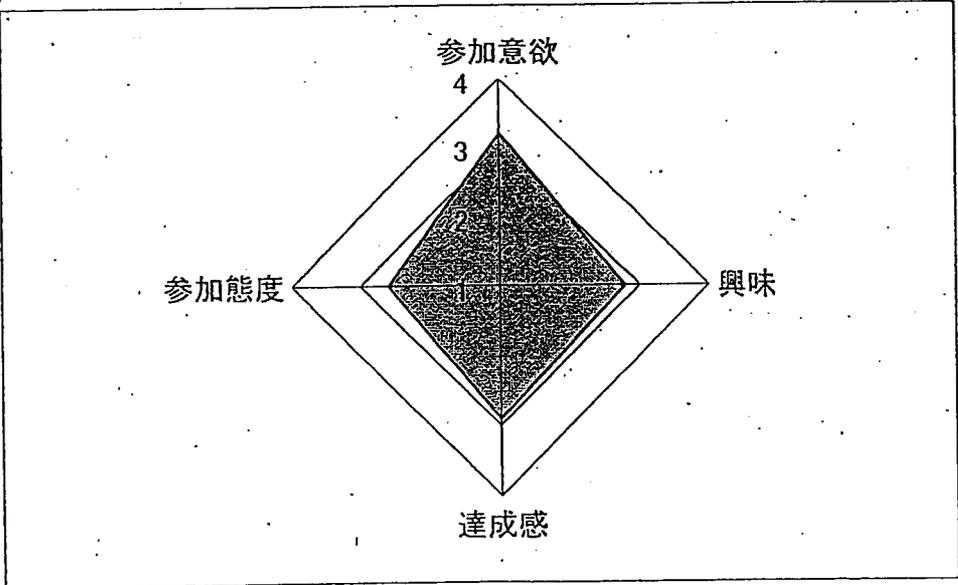
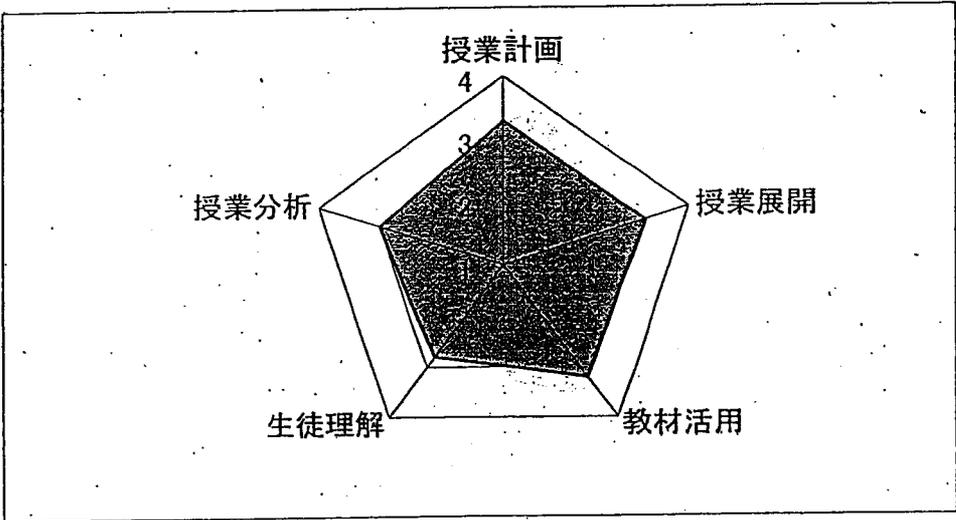
生命科学②

登録数	35
回答数	25

平成24年2月実施

code
11056202

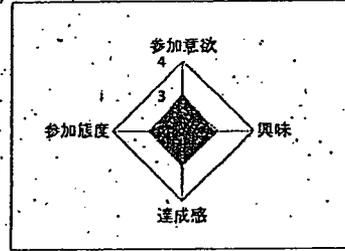
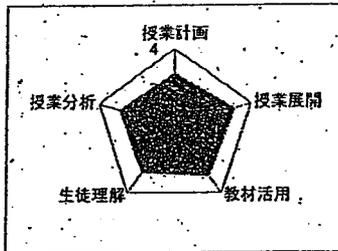
	答 1	答 2	答 3	答 4	評価 小計			
質問1	11	12	1	1	3.3	①	授業計画	3.3
質問2	11	9	4	1	3.2	②+③	授業展開	3.3
質問3	14	9	1	1	3.4	④	教材活用	3.2
質問4	11	10	3	1	3.2	⑤	生徒理解	2.8
質問5	7	9	7	2	2.8	⑥	授業分析	3
質問6	9	9	6	1	3			
質問7	8	15	2	0	3.2	⑦	参加意欲	3.2
質問8	7	10	4	4	2.8	⑧	興味	2.8
質問9	6	12	5	2	2.9	⑨	達成感	2.9
質問10	5	8	8	4	2.6	⑩	参加態度	2.6



平成23年度 後期授業評価アンケートにおける必修科目とその他の科目との相違

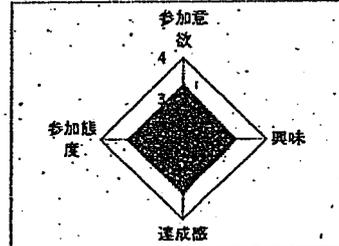
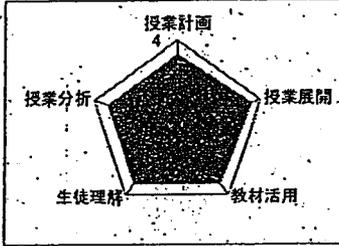
国語総合

	答1	答2	答3	答4		
質問1	122	78	13	8	授業計画	3.4
質問2	136	80	5	1	授業展開	3.6
質問3	130	76	15	1	教材活用	3.5
質問4	132	80	9	1	生徒理解	3.4
質問5	111	89	19	3	授業分析	3.5
質問6	121	88	12	1		
質問7	83	81	45	12	参加意欲	3.1
質問8	75	77	46	23	興味	2.9
質問9	75	91	42	14	達成感	3
質問10	78	85	44	15	参加態度	3



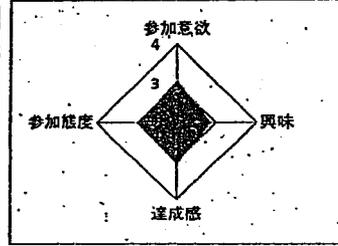
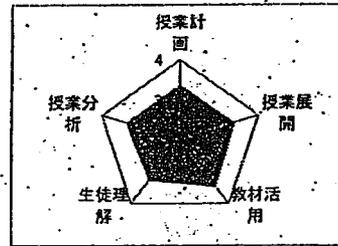
国語 必修以外の科目

	答1	答2	答3	答4		
質問1	72	26	2	0	授業計画	3.7
質問2	81	17	2	0	授業展開	3.8
質問3	77	20	3	0	教材活用	3.7
質問4	77	21	1	1	生徒理解	3.7
質問5	68	28	3	0	授業分析	3.7
質問6	73	26	1	0		
質問7	45	52	3	0	参加意欲	3.4
質問8	46	38	14	1	興味	3.3
質問9	47	44	9	0	達成感	3.4
質問10	53	38	7	2	参加態度	3.4



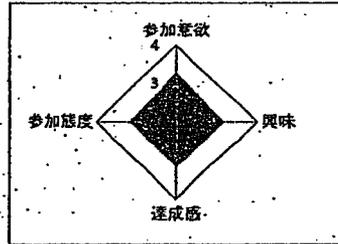
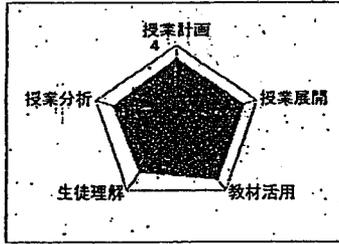
世界史

	答1	答2	答3	答4		
質問1	44	29	3	4	授業計画	3.4
質問2	50	25	3	2	授業展開	3.4
質問3	40	28	7	4	教材活用	3.5
質問4	47	29	2	2	生徒理解	3.3
質問5	36	36	2	5	授業分析	3.4
質問6	41	31	6	2		
質問7	27	36	11	6	参加意欲	3.1
質問8	30	22	18	9	興味	2.9
質問9	30	31	13	6	達成感	3.1
質問10	30	30	11	9	参加態度	3



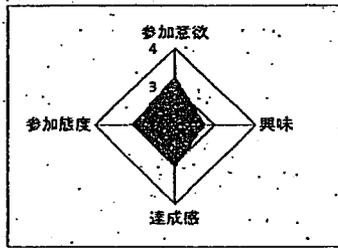
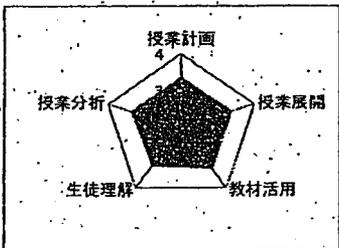
地理 必修以外の科目

	答1	答2	答3	答4		
質問1	130	52	5	1	授業計画	3.7
質問2	137	48	3	0	授業展開	3.7
質問3	123	53	12	0	教材活用	3.7
質問4	139	45	2	0	生徒理解	3.5
質問5	112	67	7	2	授業分析	3.6
質問6	125	59	2	2		
質問7	80	88	15	5	参加意欲	3.3
質問8	76	85	19	7	興味	3.2
質問9	78	79	26	5	達成感	3.2
質問10	80	76	24	8	参加態度	3.2



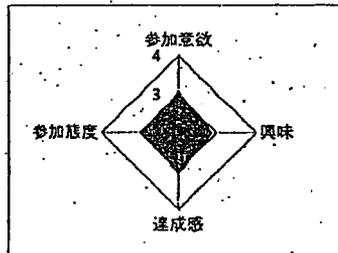
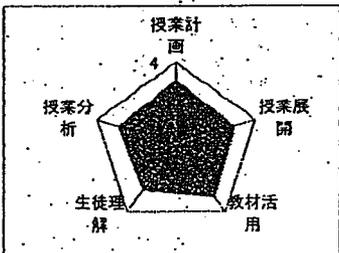
現代社会

	答1	答2	答3	答4		
質問1	29	19	5	2	授業計画	3.4
質問2	27	18	9	1	授業展開	3.4
質問3	32	17	5	1	教材活用	3.4
質問4	28	20	6	1	生徒理解	3.3
質問5	29	16	6	4	授業分析	3.4
質問6	30	18	4	3		
質問7	22	27	5	1	参加意欲	3.3
質問8	17	16	16	6	興味	2.8
質問9	19	24	10	2	達成感	3.1
質問10	20	22	9	4	参加態度	3.1



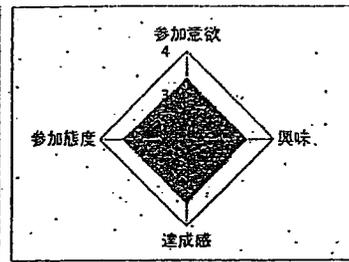
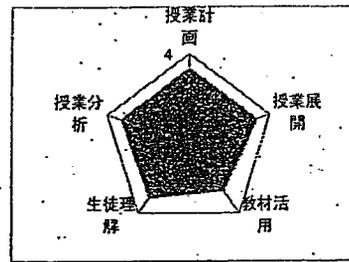
公民 必修以外の科目

	答1	答2	答3	答4		
質問1	56	29	3	0	授業計画	3.6
質問2	60	27	1	0	授業展開	3.5
質問3	36	38	7	3	教材活用	3.6
質問4	56	28	2	1	生徒理解	3.4
質問5	40	41	5	2	授業分析	3.5
質問6	48	36	4	0		
質問7	31	44	7	6	参加意欲	3.1
質問8	23	44	12	9	興味	2.9
質問9	27	44	14	3	達成感	3.1
質問10	22	45	14	6	参加態度	3



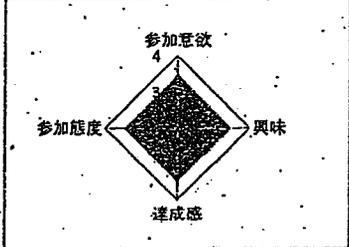
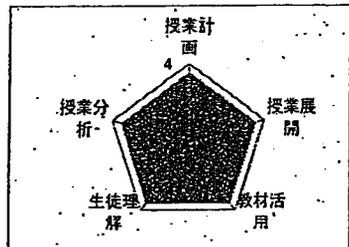
情報/商業の必修修以外の科目

	答1	答2	答3	答4		
質問1	36	11	2	0	授業計画	3.7
質問2	34	15	0	0	授業展開	3.7
質問3	32	11	5	0	教材活用	3.4
質問4	27	16	3	3	生徒理解	3.6
質問5	33	13	1	2	授業分析	3.7
質問6	32	17	0	0		
質問7	28	15	6	0	参加意欲	3.4
質問8	26	17	4	2	興味	3.4
質問9	33	10	4	2	達成感	3.5
質問10	29	16	3	1	参加態度	3.5



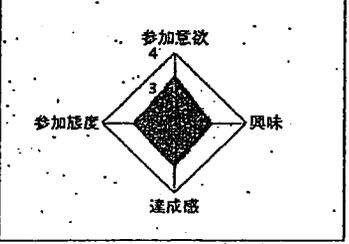
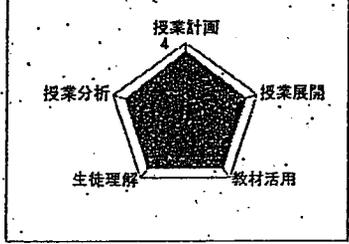
(学)国際教養の科目

	答1	答2	答3	答4		
質問1	56	14	0	0	授業計画	3.8
質問2	60	7	3	0	授業展開	3.8
質問3	57	9	3	0	教材活用	3.8
質問4	57	11	1	1	生徒理解	3.8
質問5	54	16	0	0	授業分析	3.8
質問6	59	11	0	0		
質問7	37	29	4	0	参加意欲	3.5
質問8	42	25	2	1	興味	3.5
質問9	42	21	6	1	達成感	3.5
質問10	42	24	3	1	参加態度	3.5



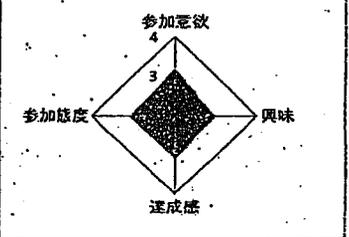
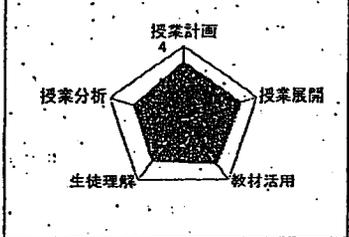
(学)総合の科目

	答1	答2	答3	答4		
質問1	52	14	0	0	授業計画	3.8
質問2	52	12	2	0	授業展開	3.7
質問3	39	24	1	1	教材活用	3.7
質問4	50	14	2	0	生徒理解	3.7
質問5	45	19	2	0	授業分析	3.7
質問6	46	19	1	0		
質問7	31	28	5	1	参加意欲	3.4
質問8	24	29	9	3	興味	3.1
質問9	24	36	5	1	達成感	3.3
質問10	28	29	6	3	参加態度	3.2



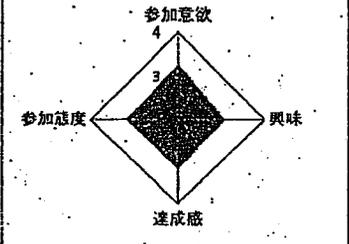
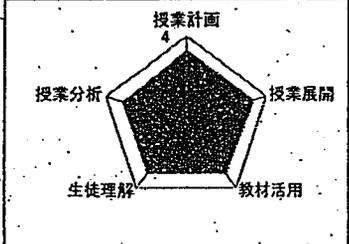
GS I

	答1	答2	答3	答4		
質問1	100	50	3	1	授業計画	3.6
質問2	99	50	5	0	授業展開	3.6
質問3	101	45	6	1	教材活用	3.5
質問4	89	58	6	1	生徒理解	3.4
質問5	77	63	12	1	授業分析	3.4
質問6	82	57	13	1		
質問7	56	69	26	3	参加意欲	3.2
質問8	54	53	34	13	興味	3
質問9	60	58	22	14	達成感	3.1
質問10	54	67	22	11	参加態度	3.1



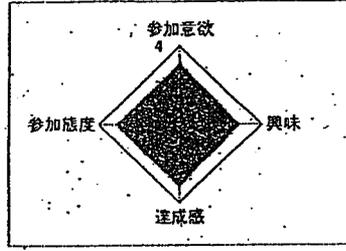
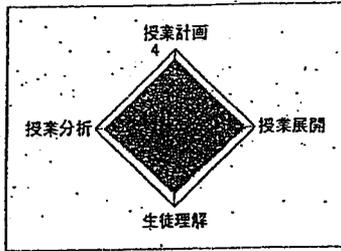
GS II

	答1	答2	答3	答4		
質問1	97	36	3	2	授業計画	3.7
質問2	100	34	3	1	授業展開	3.7
質問3	90	36	10	2	教材活用	3.6
質問4	84	47	4	1	生徒理解	3.6
質問5	86	45	6	1	授業分析	3.6
質問6	85	46	6	1		
質問7	66	54	12	4	参加意欲	3.3
質問8	55	47	25	11	興味	3.1
質問9	60	47	25	6	達成感	3.2
質問10	62	49	22	5	参加態度	3.2



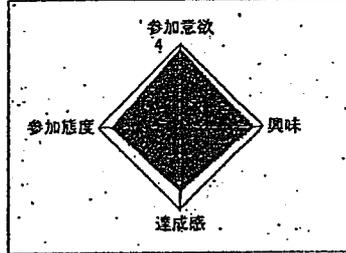
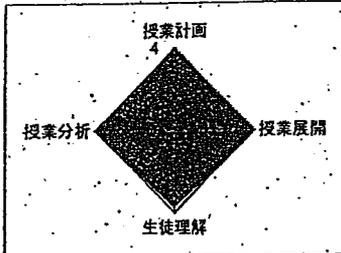
体育Ⅲ

	答1	答2	答3	答4		
質問1	55	10	1	0	授業計画	3.8
質問2	57	8	1	0	授業展開	3.8
質問3	51	14	1	0	生徒理解	3.7
質問4	0	0	0	0	授業分析	3.8
質問5	51	13	2	0		
質問6	56	9	1	0		
質問7	43	20	3	0	参加意欲	3.6
質問8	41	18	5	2	興味	3.5
質問9	43	17	6	0	達成感	3.6
質問10	45	18	2	1	参加態度	3.6



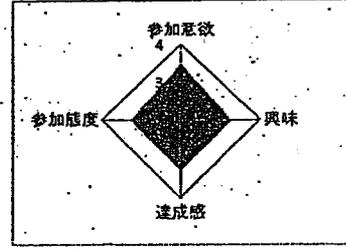
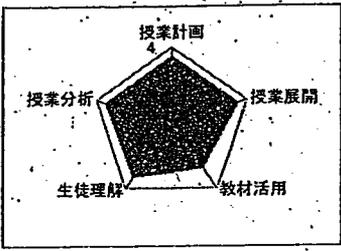
スポーツⅡ

	答1	答2	答3	答4		
質問1	21	0	0	0	授業計画	4
質問2	21	0	0	0	授業展開	4
質問3	19	2	0	0	生徒理解	3.9
質問4	0	0	0	0	授業分析	4
質問5	18	3	0	0		
質問6	20	1	0	0		
質問7	19	2	0	0	参加意欲	3.9
質問8	17	3	1	0	興味	3.8
質問9	15	4	2	0	達成感	3.6
質問10	15	6	0	0	参加態度	3.7



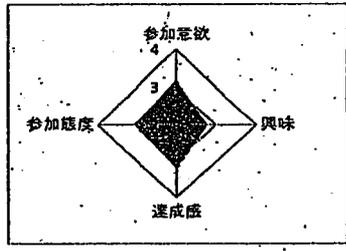
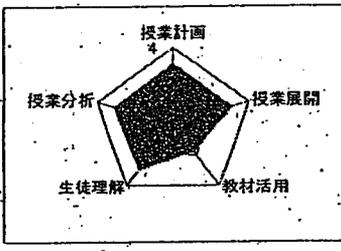
保健Ⅰ

	答1	答2	答3	答4		
質問1	67	15	1	0	授業計画	3.8
質問2	77	6	0	0	授業展開	3.8
質問3	63	18	0	1	教材活用	3.4
質問4	44	29	3	6	生徒理解	3.7
質問5	60	21	2	0	授業分析	3.8
質問6	69	13	0	0		
質問7	47	27	6	2	参加意欲	3.5
質問8	42	27	9	5	興味	3.3
質問9	44	25	9	5	達成感	3.3
質問10	41	30	9	3	参加態度	3.3



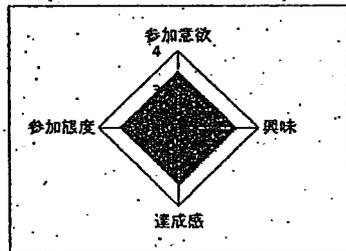
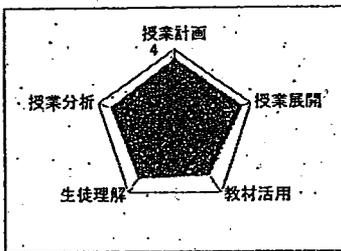
保健Ⅱ

	答1	答2	答3	答4		
質問1	48	21	4	1	授業計画	3.6
質問2	51	19	4	0	授業展開	3.6
質問3	46	23	5	0	教材活用	2.9
質問4	33	16	4	18	生徒理解	3.5
質問5	43	24	6	1	授業分析	3.6
質問6	45	27	2	0		
質問7	30	31	11	1	参加意欲	3.2
質問8	23	22	22	7	興味	2.8
質問9	27	31	14	1	達成感	3.2
質問10	28	33	5	8	参加態度	3.1



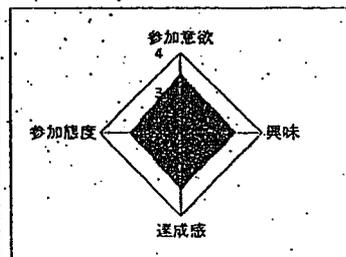
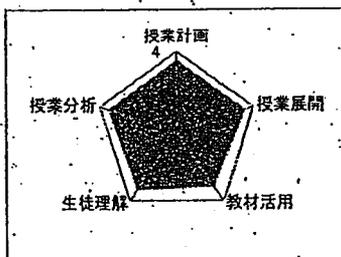
芸術Ⅰ音楽

	答1	答2	答3	答4		
質問1	68	11	1	0	授業計画	3.8
質問2	63	16	1	0	授業展開	3.8
質問3	57	23	0	0	教材活用	3.5
質問4	50	23	4	3	生徒理解	3.6
質問5	52	23	5	0	授業分析	3.7
質問6	55	24	1	0		
質問7	44	31	4	1	参加意欲	3.5
質問8	45	27	6	1	興味	3.5
質問9	42	34	3	1	達成感	3.5
質問10	45	28	6	1	参加態度	3.5



芸術Ⅱ 必修以外の科目

	答1	答2	答3	答4		
質問1	106	27	0	0	授業計画	3.8
質問2	104	25	4	0	授業展開	3.8
質問3	98	31	4	0	教材活用	3.6
質問4	92	31	5	4	生徒理解	3.7
質問5	96	35	1	1	授業分析	3.8
質問6	101	31	1	0		
質問7	74	46	12	1	参加意欲	3.5
質問8	68	51	11	3	興味	3.4
質問9	69	46	17	1	達成感	3.4
質問10	67	45	14	7	参加態度	3.3



評価・育成システム改革について
小中学校課の対応

資料3

◆課題

- ・評価・育成システムに“授業評価”のどのように位置づけるか？
- ・校長のおこなう授業評価の際にふまえる“児童・生徒・保護者の評価”をどうするか？
児童生徒に授業評価は可能か？(発達段階・客観性・利害関係[成績に響く]…)
保護者に授業評価は可能か？(評価機会の少なさ・客観性・利害関係[成績に響く]…)
すべての教員に平等な評価項目設定は可能か？(経年数の違い・担当学年や教科の違い…)

◇対応(案)

- ・位置づけ……………評価・育成システム上に、授業評価の“観点”や“評価例”を示す。

※評価基準表を示すのは可能か？(評価観点の画一化・硬直化・陳腐化… 発達段階や教科特性の違い…)

- ・児童生徒による評価…教員への客観的評価ではなく、個々の授業満足度のアンケート



校長が各授業の充実度を把握し、その状況をふまえた上で授業評価をおこなう

- ・保護者による評価…………①学校教育診断票に授業等に関する意見欄(自由記述)を盛り込む。

※児童生徒から聞き取った間接的評価になるおそれあり。

- ②授業参観時に授業評価用紙を配布回収する。

※評価機会が少ない。(中学校での全科目の授業参観は不可能)

※高校は生徒評価のみ・支援学校は保護者評価のみ？

どちらも評価機会は均等にならないが

①の方が実現可能か？

①小学校 児童(低・中学年)用

	質問	評価	
		はい	いいえ
学習内容	このべんきょうは、よくわかりましたか。		
発問・指示の適切さ	せんせいのしつもんでいろいろかんがえましたか。		
板書の工夫等	こくばんなどにかいてあることは、よくわかりましたか。		
	じぶんのかんがえをはっぴょうしましたか。		
活動の場の構成	ともだちのはなしを、よくききましたか。		
	わかりにくいときは、せんせいにおしえてもらいましたか。		
個の学習の成立	いえでべんきょうすることを、せんせいにおしえてもらいましたか。		

②小学校 児童(中・高学年)用

	質問	評価			
		そう思う	だいたい そう思う	どちらかと いうと そうは思 わない	そうは思 わない
学習内容	授業の内容はよくわかる。				
学習目標の設定	授業では、毎時間の目標がよくわかる。				
発問・指示の適切さ	授業での説明や質問は、わかりやすい。				
板書の工夫等	授業で、黒板などに書いたり示したりしたものは、わかりやすい。				
教材・教具の工夫	授業では、写真や絵、図や実物、道具などが使われるので、わかりやすい				
活動の場の構成	授業では、じっくり考ええる時間がある。				
	授業では、考えを発表する時間がある。				
	授業では、友だちの考えを聞く時間がある。				
	授業で困ったり、悩んだりしたとき、教えてもらえる。				
個の学習の成立	授業では、宿題などで家で学習すべきことを教えてもらえる。				
	授業で、新しくわかったことやできるようになったことがある。				
学習集団づくり	学級では勉強しようという雰囲気がある。				

③中学校 生徒用・小学校専科 児童用

	質問	評価			
		そう思う	だいたい そう思う	どちらかと いうと そうは わない	そうは思 わない
学習内容	()の授業の内容はよくわかる。				
学習目標の設定	()の授業では、毎時間の目標がよくわかる。				
発問・指示の適切さ	()の授業での説明や質問は、わかりやすい。				
板書の工夫等	()の授業で、黒板などに書いたり示したりしたものは、わかりやすい。				
教材・教具の工夫	()の授業では、写真や絵、図や実物、道具などが使われるので、わかりやすい				
活動の場の構成	()の授業では、じっくり考ええる時間がある。				
	()の授業では、考えを発表する時間がある。				
	()の授業では、友だちの考えを聞く時間がある。				
	()の授業では、困ったり、悩んだりしたとき、教えてもらえる。				
個の学習の成立	()の授業では、宿題などで家で学習すべきことを教えてもらえる。				
	()の授業で、新しくわかったことやできるようになったことがある。				
学習集団づくり	()の授業では、クラスが勉強しようという雰囲気がある。				

学校教育診断票【保護者用】〔学校教育診断票(モデル) 平成18年度改訂版より〕

学校教育自己診断は、子どもたちの学校生活を生き生きとした楽しいものにするため、学校の教育活動や組織について保護者の方々に診断をしていただき、学校改善の資料にするものです。

教育活動に関するもの

次の診断内容について、該当する欄に○印をつけてください。

診断内容	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。				
2 子どもは、自分の学級が楽しいと言っている。				
3 学校の雰囲気がよく、子どもたちは生き生きしている。				
4 先生は子どもを理解している。				
5 この学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。				
6 学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。				
7 学校は保護者・地域の願いに応えている。				
8 子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。				
41 学校は、保護者や地域の人たちと話をする機会を設けている。				
42 PTA 活動には、参加しやすい。				

既存項目

改定案…授業にかかわる内容の自由記述欄を追加

本校の授業(学習内容・授業の様子・宿題…等)についてご意見をご記入ください。 ※できるかぎり、個々のクラス・教科・教職員名もご記入ください。

平成23年度 府内小中学校における「授業評価」の実施状況
(H23年3月末現在)

◇学校として組織的に授業評価を実施

小学校	83.8%
中学校	83.5%

◇授業評価を実施の校内体制について

小学校

授業評価委員会に係る委員会組織により実施	15.5%
運営委員会により実施	5.8%
既存の分掌や委員会組織により実施	71.9%

中学校

授業評価委員会に係る委員会組織により実施	31.7%
運営委員会により実施	7.2%
既存の分掌や委員会組織により実施	57.7%

◇授業評価の形式について

小学校

項目ごとに4段階評価	27.4%
項目ごとに5段階評価	5.2%
自由記述	73.5%
その他	14.6%

中学校

項目ごとに4段階評価	51.9%
項目ごとに5段階評価	9.6%
自由記述	61.1%
その他	4.3%

◇評価者について

小学校

児童	42.0%
保護者	35.5%
校内教職員	89.2%
校外教職員・専門家	49.4%
学校協議会等委員	12.6%
その他	1.1%

中学校

生徒	53.4%
保護者	33.7%
校内教職員	77.4%
校外教職員・専門家	36.5%
学校協議会等委員	9.6%
その他	0.5%

◇評価後の取組について

小学校

評価結果をもとに校内研修を実施	75.1%
評価結果をもとに教科毎の研修を実施	13.7%
評価結果を評価者に報告	32.6%
評価結果を職員会議等で教職員に周知	39.1%
その他	3.8%

中学校

評価結果をもとに校内研修を実施	53.4%
評価結果をもとに教科毎の研修を実施	33.7%
評価結果を評価者に報告	42.8%
評価結果を職員会議等で教職員に周知	51.4%
その他	1.9%

◇授業評価を実施した成果について

小学校

授業実施上の課題発見	71.0%
授業内容の工夫改善の推進	77.1%
授業改善推進の校内体制の充実	31.5%
授業改善に向けて教職員の意識向上	69.7%
その他	0.9%

中学校

授業実施上の課題発見	71.6%
授業内容の工夫改善の推進	72.6%
授業改善推進の校内体制の充実	34.1%
授業改善に向けて教職員の意識向上	76.9%
その他	0.5%

◇平成24年度、授業評価実施予定

小学校	86.1%
中学校	86.7%